

Ⅲ. 受託研究報告

館林市茂林寺周辺地域における地域活性化に関する調査研究業務委託報告

研究員 古屋秀樹（国際地域学部国際観光学科 教授）

1. 調査研究業務の概要

本調査研究業務は、館林市（経済部花のまち観光課）より、古屋秀樹研究員に対して委託されたものである。「館林市茂林寺周辺観光地化の推進を図ること」を目的としながら、その具現化のために、対象地域来訪者への対面聞きとりアンケート調査を通じて、来訪目的、来訪頻度、同行者、居住地、立寄り地などの来訪者実態ならびに意向把握を行ったものである。なお、委託研究期間は、平成25年4月1日から平成25年6月28日までであり、業務委託料は73,500円であった。

2. アンケート調査の概要

実施したアンケート調査の実施主体、日時、場所、調査項目等を下記に示す。

(1)調査主体 東洋大学地域活性化研究所古屋研究室、館林市花のまち観光課

(2)調査日時・方法 平成25年5月12日（日）9:30-13:30 対面聞きとり方式

(3)調査場所・回収枚数 ザ・トレジャーガーデン70枚、茂林寺71枚、

その他(湿原での聞き取り等)26枚 合計167枚回収

(4)調査研究目的

茂林寺周辺の地域振興検討のための来訪者の実態把握を目的とする。

(5)調査項目

1)個人属性 性別、年齢階層、居住地

2)来訪行動 利用交通手段、同行者、立ち寄り地点、再訪意向、その他自由回答

3. 来訪者の個人属性

(1)性年齢階層別サンプル数

表1 性年齢階層別サンプル数(左)、構成比率(右)

	男性	女性	不明	総計		男性	女性	不明	総計
10歳代		1		1	10歳代	0%	1%	0%	1%
20歳代	5	4		9	20歳代	5%	6%	0%	5%
30歳代	5	6		11	30歳代	5%	9%	0%	7%
40歳代	14	12		26	40歳代	14%	18%	0%	16%
50歳代	26	20	1	47	50歳代	26%	30%	100%	28%
60歳代	35	15		50	60歳代	35%	22%	0%	30%
70歳以上	14	9		23	70歳以上	14%	13%	0%	14%
総計	99	67	1	167	総計	100%	100%	100%	100%

性別では、男性59%、女性40%となった。グループでの来訪の場合は、1名のみ聞き取りしたため、来訪者全員の比率との整合性については留意する必要がある。また、年齢階層では、60

歳代、50歳代が約30%づつを占めているのが特徴である。

(2)居住地分布

表2 サンプルの居住地分布

都県	サンプル数	構成比率
茨城県	14	8%
栃木県	14	8%
群馬県	20	12%
埼玉県	73	44%
千葉県	17	10%
東京都	21	13%
神奈川県	4	2%
静岡県	2	1%
不明	2	1%
総計	167	100%

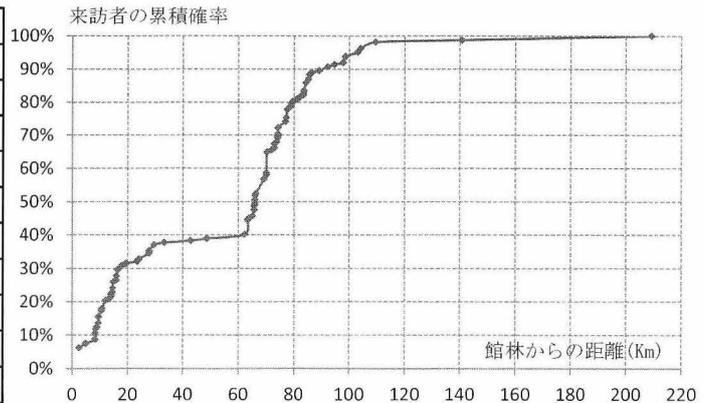


図1 館林までの距離別サンプル累積確率

表2に居住地(都県)別サンプル数を示す。表より、埼玉県からの来訪者が44%と最も多く、続いて東京都、群馬県、千葉県の比率が高いことがわかる。また、市町村別にみると、館林市、さいたま市(いずれも10サンプル)、春日部市、越谷市(いずれも7サンプル)の順となっており、その他は4サンプル以下(構成比率2%に相当)であった。

次に、図1に館林までのアクセス距離の累積構成比率を示す。なお、距離の算出には、居住地の市区町村役所と館林市役所との直線距離を緯度経度情報から推定した。図1より、30km圏内からが約4割を占め、館林市、太田市などの県内に加え、栃木県(小山市、足利市、佐野市など)、茨城県(古河市など)、埼玉県(鴻巣市、加須市など)が誘致圏と考えられる。一方、60km以遠が6割を占めており、GWにおける花を目的とした来訪の顕在化、多くの人口居住地であること、春日部市、越谷市など東武伊勢崎線沿線での情報提供、アクセス容易性による影響が推察できる。

4. 来訪行動の特性

(1)代表利用交通手段

表3 代表利用交通手段別サンプル数・構成比率

代表交通手段	サンプル数	構成比率
①自動車	133	80%
②鉄道	19	11%
③路線バス	1	1%
④貸切バス等	7	4%
⑤自転車	3	2%
⑥自動二輪	1	1%
⑦徒歩	3	2%
総計	167	100%

表4 鉄道利用者の居住地分布ならびに鉄道選択率

居住地	サンプル数	鉄道選択率
さいたま市	4	40%
春日部市	2	29%
越谷市	2	29%
三郷市	2	67%
足立区	2	67%
深谷市	1	50%
八潮市	1	100%
杉戸町	1	50%
船橋市	1	25%
野田市	1	50%
北区	1	50%
不明	1	—
合計	19	—

表 3 は、来訪者の代表利用交通手段を示したものである。自動車の選択率が 80%で最も高く、鉄道、貸切バスとつづく。この中で、個人来訪で、近隣からの来訪が予想される路線バス、自転車、自動二輪、徒歩を除くと、自家用車の選択確率が約 9 割と高いことがわかる。

次に、鉄道利用者の居住地分布ならびに居住地別鉄道利用率を表 4 に示す。少数サンプルのため明確な傾向をつかむことは困難であるが、東武伊勢崎線沿線が多く分布していることがわかる。

(2)同行者

表 5 同行者の構成比率

	①自分一人	②夫婦	③親と子	④3世代家族	⑤友人・知人	⑥家族と友人・知人	⑦各種団体	⑧不明	合計
10歳代	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
20歳代	0%	0%	33%	0%	33%	33%	0%	0%	100%
30歳代	9%	0%	36%	9%	27%	18%	0%	0%	100%
40歳代	19%	27%	31%	4%	4%	12%	4%	0%	100%
50歳代	4%	45%	13%	6%	17%	6%	6%	2%	100%
60歳代	2%	44%	16%	4%	10%	16%	8%	0%	100%
70歳以上	9%	43%	13%	0%	4%	17%	13%	0%	100%
総計	7%	36%	20%	4%	13%	14%	7%	1%	100%

表 5 は、年齢階層別の同行者構成比率を示したものである。構成比率が 20%を超えるセルを灰色で示した。10～30 歳代では、③親と子、⑤友人・知人、⑥家族と友人・知人の割合が高い一方、40 歳以上では、②夫婦の割合が高いのが特徴である。

(3)立寄り場所

来訪者の立寄り場所をみると、①茂林寺、②ザ・トレジャーガーデン、③つつじヶ岡公園の指摘率が高く、その他は 5%を下回る。当初予想していた「あしかがフラワーパーク」や「佐野プレミアムアウトレット」への立寄り率は少なかった。これは、GW(ゴールデンウィーク)1 週後の調査日のため花の最盛期にあったこと、そのためザ・トレジャーガーデンとつつじヶ岡公園の集積から「館林」が単独の目的地として位置づけられたこと、足利とは距離が離れていること、佐野プレミアムアウトレットとは客層、行動形態が異なること、等によるためと考えられる。

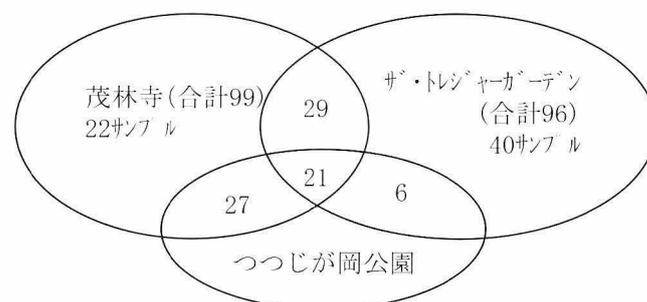


図 2 主要 3 地点の立寄り組合せ

さて、指摘率の高かった地点を複数周遊したサンプル数を確認すると、図2のように示すことができる。茂林寺では、単独立寄りが22サンプル(22%)と少なく、他の2箇所立ち寄る割合が高い。それに対して、ザ・トレジャーガーデンは40サンプル(42%)が単独立寄りであり、魅力が高いことや一部、団体客の立寄り率の高さが考えられる。また、隣接する茂林寺とザ・トレジャーガーデンをいずれも立寄るのが50サンプルにのぼり約半数を占めることがわかる。これより、両地域を一体的に利用している割合が高く、茂林寺沼周辺の整備によって更なる利便性、満足度向上につながる事が考えられる。

また、昼食(予定)場所(択一式)についてみると、自宅は7%にとどまり、それ以外は外食と回答している中で、館林市は7割を占めていた。なお、その他の回答(17%)には、「まだ来たばかりで分からない」と、他の地域がそれぞれ半数を占めており、うどんなどの名産物を情報提供する余地が残っているものと考えられる。

(4)再訪意向

表6 館林市への再訪意向の回答分布 (左：サンプル数，右：構成比率)

	1	2	3	4	5	6	7	総計	1	2	3	4	5	6	7	総計
総計	3	4	1	24	36	74	25	167	2%	2%	1%	14%	22%	44%	15%	100%
男性	3	4	1	13	17	47	14	99	3%	4%	1%	13%	17%	47%	14%	100%
女性				11	19	26	11	67	0%	0%	0%	16%	28%	39%	16%	100%
不明						1		1	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
10歳代					1			1	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
20歳代				2	3	4		9	0%	0%	0%	22%	33%	44%	0%	100%
30歳代					2	8	1	11	0%	0%	0%	0%	18%	73%	9%	100%
40歳代			1	4	6	9	6	26	0%	0%	4%	15%	23%	35%	23%	100%
50歳代	1	2		7	11	23	3	47	2%	4%	0%	15%	23%	49%	6%	100%
60歳代	1	2		11	9	17	10	50	2%	4%	0%	22%	18%	34%	20%	100%
70歳以上	1				4	13	5	23	4%	0%	0%	0%	17%	57%	22%	100%
茨城県	1			2	5	4	2	14	7%	0%	0%	14%	36%	29%	14%	100%
栃木県		1		3	3	6	1	14	0%	7%	0%	21%	21%	43%	7%	100%
群馬県	1			2	2	13	2	20	5%	0%	0%	10%	10%	65%	10%	100%
埼玉県		2	1	9	17	31	13	73	0%	3%	1%	12%	23%	42%	18%	100%
千葉県		1		1	3	10	2	17	0%	6%	0%	6%	18%	59%	12%	100%
東京都	1			5	2	9	4	21	5%	0%	0%	24%	10%	43%	19%	100%
神奈川県				1	2		1	4	0%	0%	0%	25%	50%	0%	25%	100%
静岡県				1		1		2	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	100%
不明					2			2	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
自分ひとり					4	6	1	11	0%	0%	0%	0%	36%	55%	9%	100%
夫婦	2	2		8	13	27	8	60	3%	3%	0%	13%	22%	45%	13%	100%
親と子		1		4	6	15	7	33	0%	3%	0%	12%	18%	45%	21%	100%
3世代				1	1	4	1	7	0%	0%	0%	14%	14%	57%	14%	100%
友人・知人	1			5	8	7		21	5%	0%	0%	24%	38%	33%	0%	100%
家族と友人		1		3	2	11	6	23	0%	4%	0%	13%	9%	48%	26%	100%
各種団体			1	3	1	4	2	11	0%	0%	9%	27%	9%	36%	18%	100%
不明					1			1	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%

7段階評価(1:全く再訪したくない, 2:再訪したくない, 3:あまり再訪したくない, 4:どちらともいえない, 5:出来れば再訪したい, 6:再訪したい, 7:非常に再訪したい)によって、館林市への再訪意向を聞き取りした。表9はその結果である。全サンプルに加え、性別、年齢階層、居住地、

同行者ごとに分布を示した。

おおまかな傾向であるが、どちらともいえない（4点）、出来れば再訪したい（5点）が全体の1/3を占めているため改善が必要と考えられること、40歳代以上で評価が良好であること、同行者における友人・知人、各種団体に評価が高くないことが明らかとなった。これらのサンプルの評価を改善するのか、他の属性区分の評価をさらに高める必要があるのか、さらなる検討が必要と考えられる。また、再訪意向得点が高い具体的な理由としては、花（バラ、芝桜）がきれい、毎年来ている、近所に居住しているから、などの理由が多かった。

5. まとめ

アンケート調査から、来訪者の実態をみると、年齢階層では、60歳代、50歳代が約30%ずつを占め、高齢者が多い結果となった。また、居住地では、埼玉県からの来訪者が44%と最も高く、続いて東京都、群馬県、千葉県の比率が高いことがわかった。さらに、代表利用交通手段では、自動車の選択率が80%で最も高く、鉄道、貸切バスとつづいた。そして、同行者をみると、10～30歳代では、③親と子、⑤友人・知人、⑥家族と友人・知人の割合が高い一方、40歳以上では、②夫婦の割合が高いのが特徴であった。

さらに、立ち寄り地点では、①茂林寺、②ザ・トレジャーガーデン、③つつじヶ岡公園の指摘率が高く、その他は5%を下回った。これら、指摘率の高かった地点を複数周遊したサンプル数を確認すると、茂林寺では、単独立寄りが22サンプル(22%)と少なく、他の2箇所に立ち寄る割合が高い。それに対して、ザ・トレジャーガーデンは40サンプル(42%)が単独立寄りであり、魅力が高いことや一部、団体客の立寄り率の高さが考えられる。また、隣接する茂林寺とザ・トレジャーガーデンをいずれも立寄るのが50サンプルにのぼり約半数を占めることがわかる。これより、両地域を一体的に利用している割合が高く、茂林寺沼周辺の整備によって更なる利便性、満足度向上につながる事が考えられる。

再訪意向（7段階評価）では、どちらともいえない（4点）、出来れば再訪したい（5点）が全体の1/3を占めているため改善が必要と考えられること、40歳代以上で評価が良好であること、同行者における友人・知人、各種団体に評価が高くないことが明らかとなった。これらのサンプルの評価を改善するのか、他の属性区分の評価をさらに高める必要があるのか、さらなる検討が必要と考えられる。

謝辞 本委託業務の実施にあたって、古屋研究室に所属する大野綾香氏、清水理恵子氏、三浦麻里氏（東洋大学国際観光学科3年）の協力を頂いた。ここに深謝の意を表します。